

頂上の物見岩からは遠近に、北アルプス、八ヶ嶽、浅間、秩父、妙義等の名山高峰が一眸の裡に集まるといふが、我等が登山の時は可惜霧が襲来して小雨さへ加はり直ぐ近くの荒船山が見へるだけであつて、遠望は不能であつた。

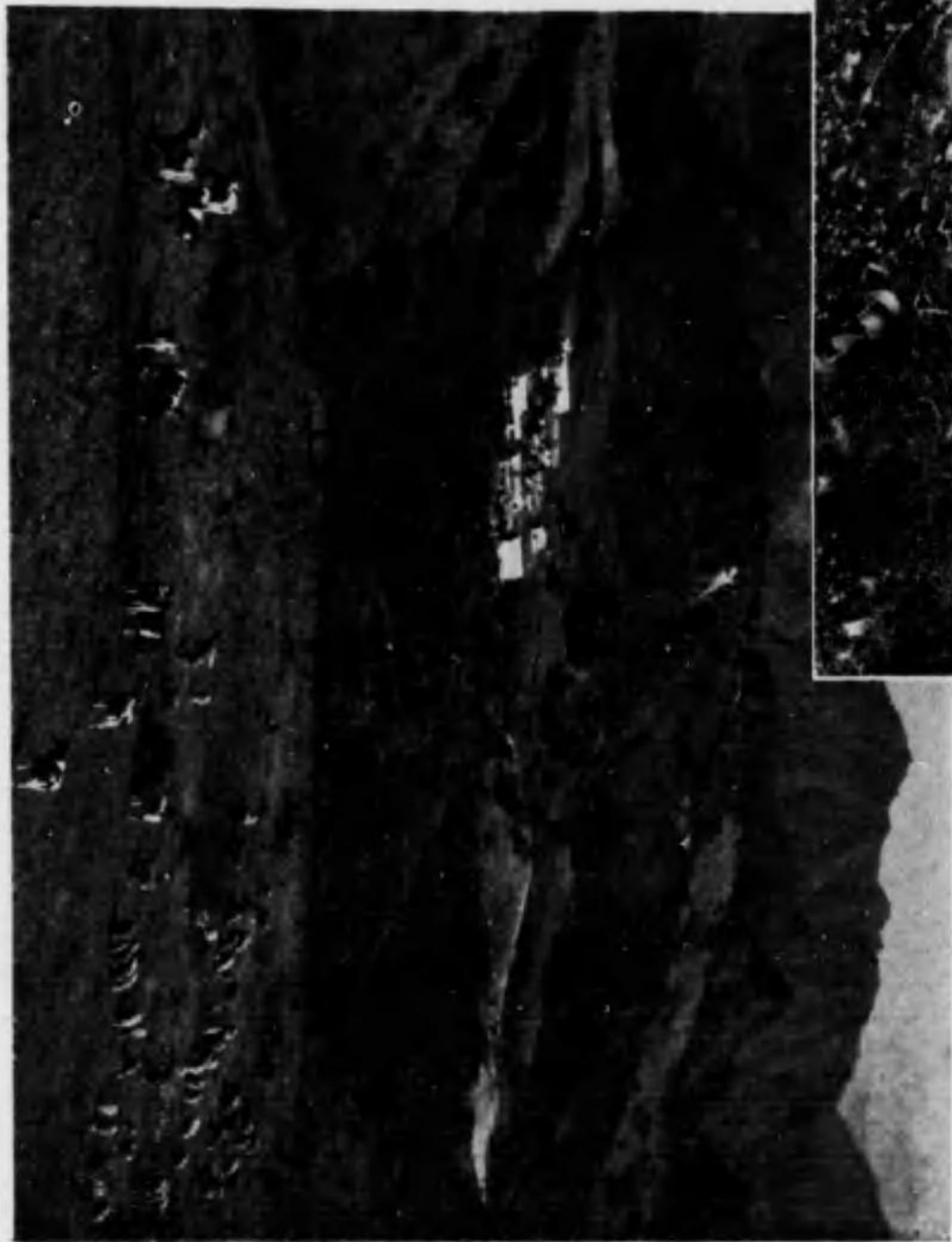
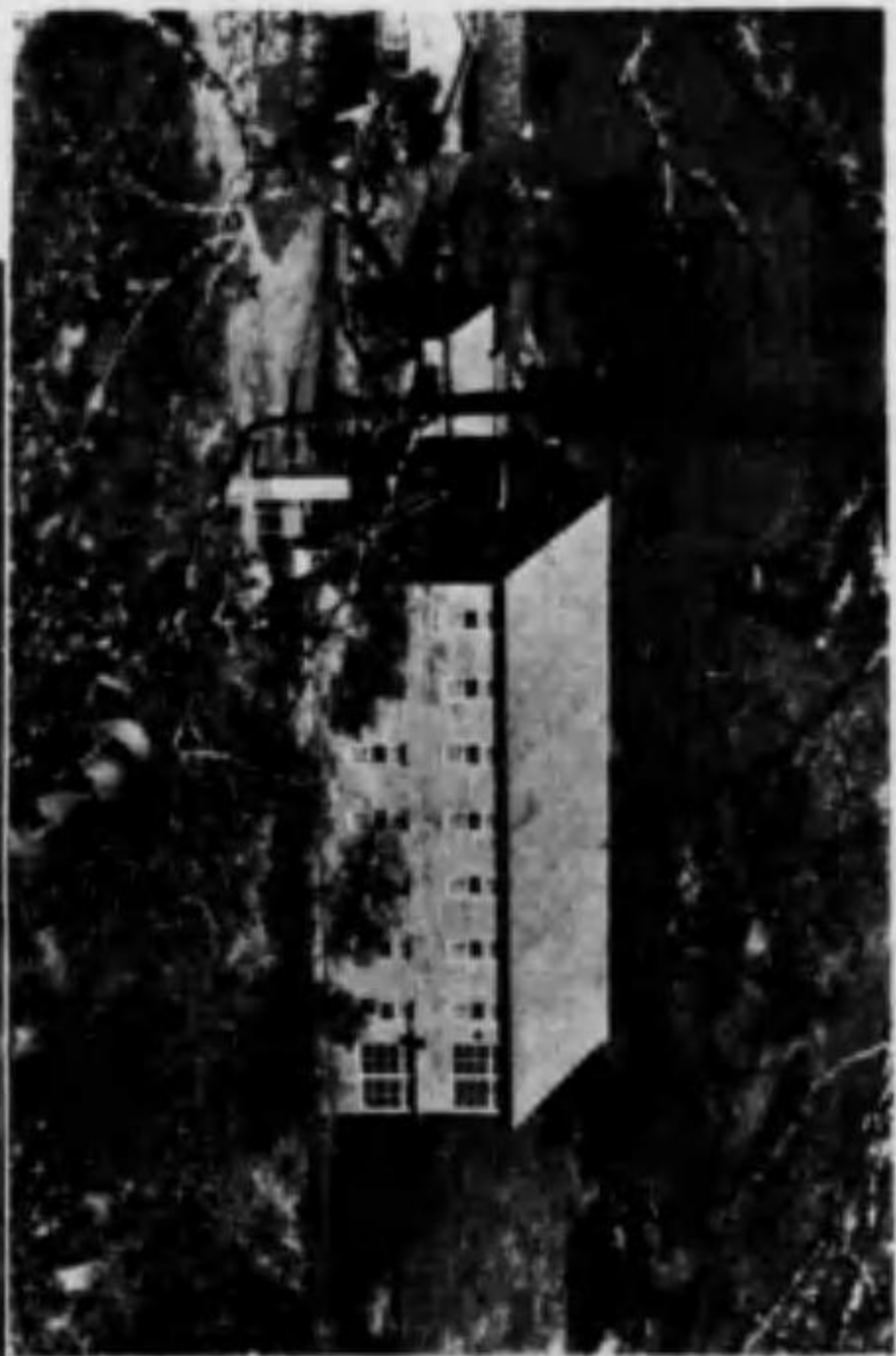
物見山のぼりて見ればはてしなき

まきばの奥に霧立ちのぼる

それでも牛馬の群が此處彼處に點在して、木柵が遠く連なりて末は霧に包まれ、牧場の家根からは炊烟が上つてをり、栗や杉の木などが或は一本立ちにて或は林となりて、緑の浮彫の様に處に見へてをる。裾野には薄、萩、女郎花、われもこうなど其他我々が名も知らぬ草花が御花畑とも稱し得べきほどに咲き競ふてをつた。

木の柵は國の境につらなりて

末はるばると霧はとざしつ



明 治 經 營 神 津 牧 場

秋の野に牧草をおひてうつり行く

乳牛の群の長閑なるかな

山尾根を長閑につたふ馬の群

立つ山霧に見へつかくれつ

八千草の色とりどりにほふかな

山の裾野の御花畑に

牧場内を見渡せば、牧草地として開墾された稍平かな處も見えて、玉蜀黍の畑も美事である。今後も開墾を続ける計畫でその面積は七八十町歩にも達するであらう。かくて所謂高原開發の見本を展示してをるやうなものである。我國は山野が多いのに之が開發は後れてをる。我々は我國耕地の面積を増加するため常に高原開發を唱道してをるのである。

栗の木の特在してをる小高き山腹の處で百餘の羊群を一頭の犬がお守りして、宛も軍隊の様に移行せしむる動作も見物である。數年前三十一頭の羊を濠洲より輸入して牧場に飼育してをるので、年々繁殖して種羊は滿洲邊にも供給してをる。

一頭の犬におはれてうつり行く

羊の群の足もみだれず

羊小舎の上の小平に石佛二基が見える。國定忠次が座元を張りし古蹟でもあると傳へられてをる。石佛の靈驗は出世成功にあらたかであるといはれて、御日柄には遠邊からの參詣人が千人以上にも達することである。境内とも思はるゝ處に、巨木の根株が残つてをる。數年前まで亭亭として空に聳り立つた樅の大木で國定時代から榮えたものであつたらうに、道行く人の火氣の過ちとかにて枯れて仕舞つた由である。この大木が今に榮えてをつたらば神津牧場に一段の風致を添へるであらうと思はれてならない。さりながらその傍らに二本の楓が最早鬱蒼として綠蔭を作つてをる。是で稍々慰むべきであると思返した。

仰ぎ見し樅の老木は枯れにけり

楓二本を後繼ぎにして

此の牧場の牛は二百頭ばかりで、主にデヤージー種である。他の種類もあるが數ふるほどもない。デヤージーの牛乳は黄味を帯びて濃厚である。歐米ではゴールデンミルクと稱して推賞されてをる。この牛乳から造つたバターは金色燦然として自然の美味眞に掬するに足る。神津バターと稱せられて餘りにも有名である。

夏季は輕井澤の厩舎に數十頭を移し、其處に處理所もあつて、鮮乳を避暑客に供給してをる。牧場から信州に越へて平賀と云ふ村落に出る道路もある。平賀村にも當社の牛乳處理所がある。旁々夏季は神津、輕井澤、平賀三ヶ所の牛乳處理所が相呼應して、避暑客の便を圖つてをる。瑞西が世界觀光客を多く惹付ける所以は、その風光の明媚なることの外に歐米人の食卓には朝夕なくてはならぬ牛乳、バター等の優良なるに在りと曰はれる。我社もこの文化食物を優良と豊富にして世界の注目を惹きたく努力してをる次第である。

牛も羊も野原に草を逐ふて移行し牛は夏の間は野宿を續けてをる。寒くなつてから乳舎に歸るのである。尤も生れたての犢だけは夏でも牧舎に残つてをる。犢を見た人は誰でも眉目清秀と曰つた感じを持つであらう。その鮮やかな眼ざしと口もととは、如何にも愛着そのものと稱すべき

である。

澄みしまなこいとしき口のいひしらす

犢のむれの人なつかしも

場内には清溪がせ、らいで栗の林が其處の土堤に連つてをる。其の木蔭には數頭の牛が悠々として野草を喰つてをる。山莊の庭には古蒼蒼然たる松の大木が枝を延ばしてをる。朴の木の大木もある。我等は晝食のとき牛乳と、もぎたての玉蜀黍の御馳走に預つたが、都などではとても味ふことの出来ぬほどの美味であつた。西牧村の村長助役一行五人挨拶の返禮として、西牧村から態々徒歩で上つて來られたのには恐入つた。山村の人達の健脚には、坂路も平地の様であらうと思つた。

しげりあふ栗の林の下蔭に

遊べる牛の繪に似たるかな

うしひつじにはとりいぬと聲々に

牧場の晝のにぎはしきかな

ほうの木の大葉かへしてほの白く

吹く秋風の音もさやけく

午後三時牧場に生育したコリー種の仔犬を譲受けて自動車に乗せて歸途に就き、往路を逆行して輕井澤に歸着したのは暮れかゝる五時半であつた。願れば、乳牛の育成は色々な意味からして我國現下の急務である。その事由を數へ舉げるなら大要左の如くである。

(一)農産水産の外に畜産を加へる事となる、(二)瑞穂の國に更に新たなる榮養食糧を加へる事となる、(三)大切な母乳を補充して次代の哺育に寄與する事となる、(四)食物を文化する事となる、(五)厩肥を得て地力を消耗せざる循環農業を行ふ事となる、(六)我國の水田は行渡つてをるのに之とは反對に高原は開發されてゐないが之を實行する事となる、(七)煉乳バター等輸出を増進する事となる、(八)皮革カゼイン等の輸入を防遏する事となる、(九)外國より觀光客を誘導する便宜となる。

我社の經營するこの神津牧場の外、札幌、根室、三宅島、大連等の各牧場及今後計畫しつゝある大小の牧場が、前陳の目的を達成するに、多々益々貢獻するところあらんことを期してをる次第である。

(昭和十四年十月)

## 大明治の滿洲事業

滿洲國は北歐のやうな地域である。寒帯にして冬季が長い。無論その間は農耕が出来ない。従て牧畜を必要とする所以である。有畜農業が厩肥を耕地に返し、地力を消耗せしめずして、所謂循環農業と稱せられ、合理的な農業であることは既に世界的の定説である。況んや滿洲國は、ルイサンと稱する天然牧草に富み、且つ夏季に於ける日照時間が長いため牧草は最も適作でもあると稱せられてゐる。外に豆粕あり、<sup>ナシ</sup>蕪あり、ビートパルプあり、飼料に於ては日本國內孰れの地方よりも有利の關係にあるに於てをや。

従て牛の成育は日本内地よりは餘程早熟である。例へば内地に於て一箇年半にて成牛となるものが、滿洲國及關東州に於ては一箇年にて成牛となり、即ち半箇年も早く成育するのである。以て滿洲國が如何に牛の飼育に適するかを知るに足るのである。

大明治は滿洲國の建國前より交々人を派して、同國の甜菜糖業も又酪農業も調査する所があつた。建國後と雖も亦然りであつた。我々は糖業の經營を願出たるも、當時滿洲政府の國策として

單獨には許されずして、日本糖業聯合會を主體として經營すること、なつたが、これが滿洲製糖株式會社である。今日に於ては右の國策は變改さるゝに至つた。

糖業は滿洲國の主要産業であるが、酪農業は尙更重要産業であつて、又今では國策的産業部門の一つでもある。大明治は康徳四年（昭和十二年）哈爾濱に於ける岩田氏及並木氏のミルクプラントを買收し、同五年大連及奉天に於ける勝俣氏のミルクプラント及牧場を買收し、資本金百萬圓の滿洲明治牛乳株式會社を創立した。康徳六年哈爾濱に於て露人アース商會の酪農事業を買收し、同年大連に於て大連ミルクプラントに過半数の投資をなした。又新京に於ては新興滿洲國に來訪する歐米各國の使節其他來遊者も尠からず、然るに牛乳の如き文化食物が舊態依然として彼等外人の矚目を受くるやうにては新興國の恥辱なりとて、主として市營のミルクプラントを建設するにつきこれに参加せよとの勧誘を受けたるを以て、直に賛意を表したるも、市の御都合にて實現せず、依て當社は同市三宅氏經營のミルクプラント及牧場を買收して康徳七年新京に百五十萬圓の滿洲乳業株式會社を創設した。

以上は滿洲國に於ける酪農關係事業の實録であるが、當社は康徳元年奉天に菓子工場を新設し爾來年々これに増設を加へ、同六年哈爾濱に於て、又同七年には大連に於ていづれも菓子工場を

買收した。

康徳六年には資本金五百萬圓を以て滿洲明治製菓株式會社を創設し、本店を奉天に、支店を大連・新京・哈爾濱・牡丹江に置き、社業を統制運營しつゝある。尙以上各都市に於ける明治製菓賣店は設備完全にして頗る美觀でもあり又衛生的でもあり、滿洲の新天地に於ける普通の慰安所として一般官民の絶讃を受けてゐる。過去一箇年間の入店客數が四百萬人に達すると見ても明治製菓賣店が滿洲に於て如何に重寶がられてゐるかを知らるに足るのである。

目下計畫進行中の事業に、東滿拓殖株式會社がある。牡丹江省の勧誘に係り資本金三百萬圓うち半額は大明治に於て出資し、他の半額は牡丹江省・滿畜及生活必需品會社に於て分擔のものである。同省より數萬町歩の處女地を拂下げ、酪農を主とする拓殖會社であつて、既に創立事務所を牡丹江に設けて進捗中である。

大連に於ては林檎、桃等の果樹園數十町歩を經營しつゝあるが、大連は果樹の栽培には氣候風土の關係上世界的に最適地であると稱せられる。その爲か大連の林檎は美味を以て名あり、大連及滿洲の明治製菓賣店に於ても販賣しつゝあるが、大に好評を博してゐる。今一覽に便宜のため滿洲に於ける大明治の事業所を列記すれば左の如し。

滿洲明治製菓株式會社

奉天 本社

奉天製菓工場

奉天販賣所

奉天賣店

平安賣店

大連 支店

大連賣店

大連牧場 (果樹園を有す) | 老虎灘分場

景山牧場

龍頭牧場 (果樹園を有す) | 旅順牧場

西山牧場 (果樹園を有す)

櫻町販賣店

桃源臺販賣店

大連製菓工場

大連ミルクプラント

新京 支店

新京賣店

新京海上ビル賣店

哈爾濱 支店

哈爾濱製菓工場

哈爾濱賣店

白菊販賣店  
旅順販賣店

キタイスカヤ第一賣店  
キタイスカヤ第二賣店

馬家溝賣店

阿汗河賣店

哈爾濱市乳工場

阿城工場

一面坡工場

安達工場

牡丹江出張所

一面坡賣店

安達賣店

滿洲明治牛乳株式會社

奉天本社

奉天市乳工場

蘇家屯牧場

奉天牧場

北陵牧場

永代分場

滿洲乳業株式會社

新京本社

新京市乳工場

新京牧場

東滿拓殖株式會社

牡丹江創立事務所



昭和十六年四月廿五日印刷  
昭和十六年四月三十日發行

(非賣品)

著者 有嶋健助

編輯兼發行者 兒玉 榊

印刷者 山田三郎 太

印刷所 凸版印刷株式會社

東京市下谷區一長町一番地

東京市小石川區大塚坂下町一六二番地  
東京市下谷區二長町一番地

415
332

終



三行園